

防災週間 8月30日(火)～9月5日(月)

住民同士が協力して災害に立ち向かう!

東京都が5月に公表した「首都直下地震等による東京の被害想定」によると、マグニチュード7クラスの首都直下地震が発生した場合、最大で約19万4400棟の建物被害と、6,000人を超える死者の発生が想定されています。

大規模地震発生時には、同時多発的に火災や救助事象が発生し、消防機関だけで全てを対応することは非常に困難です。

そのため、地域住民が「自分のまちは自分たちで守る」という意識を持ち、協力して災害に立ち向かうことが必要です。

一人一人が、東京消防庁ホームページや公式アプリのリモート防災学習と地域の防災訓練や防災館での防災体験を繰り返し行い、いざという時に役立つ「防災行動力」を身に付けましょう。



防災週間
8月30日(火)～9月5日(月)まで

一緒にやってみよう! ピーヤ!

知識と体験で
防災行動力アップ!

知識: ネットやアプリを使ってリモート防災学習をしよう

体験: 防災館・地域の防災訓練に参加しよう

予習して実践

参加して復習

リモート防災学習はこちら

防災館はこちら

参加しようもしものための防災訓練

東京消防庁

令和4年度防災週間ポスター

知識(リモート防災学習)と体験(防災訓練)で 防災行動力アップ

リモート防災学習



防災訓練動画

一般向け

ホームページ 公式アプリ YouTube

消火器の使い方、避難のしかたなどを分かりやすく説明しています。防災訓練の予習・復習に活用してください。



リモート防災訓練:キュータと学ぼう! 消火器の使い方



リモート防災訓練:キュータと学ぼう! 避難のしかた

YouTube
東京消防庁公式チャンネル

防災クイズ

小学1・2年生～中学生以上

ホームページ 公式アプリ

地震や火災が発生した時の行動について、年代に合わせたクイズに挑戦できます。



ふむふむ防災TV [火災編]

小学3・4年生向け

ホームページ 公式アプリ

防災キャラクター“ふんわりふむふむ”と一緒に、楽しみながら防災について勉強できます。



東京消防庁 電子学習室

電子学習室:地震に備える

電子学習室:消火器の使い方

防火防災対策や震災対策、応急手当の方法などを、動画等で分かりやすく学習できるコンテンツを東京消防庁ホームページに掲載しています。ぜひ、ご利用ください。

9月1日は「防災の日」です。これは、大正12年9月1日に発生した関東大震災をきっかけに定められました。また、台風の多い時季でもあることから、広く防災への意識を高めてもらうため、この日を中心に「防災週間」が定められています。

防災訓練



防災館

防災館では、地震の揺れや煙、初期消火、応急手当などをツアー形式で体験訓練できます。ぜひ、ご来館ください。
※新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、開館時間、運営方法を
変更する場合があります。詳細はホームページでご確認ください。



池袋防災館



毎週金曜日に「ナイトツアー」を実施しています。夜間を想定した防災体験ができます。

- 住所／豊島区西池袋2-37-8
- 開館時間／午前9時～午後5時(毎週金曜日午後9時まで)
- TEL／03-3590-6565
- 休館日／第1火曜日・第3火曜日及び第3火曜日の翌日(祝日の場合は翌日)

本所防災館



屋内だけではなく、屋外やコンビニを想定した地震体験ができます。

- 住所／墨田区横川4-6-6
- 開館時間／午前9時～午後5時
- TEL／03-3621-0119
- 休館日／水曜日・第3木曜日(祝日の場合は翌日)

立川防災館



防災クイズや消火ゲームに挑戦するなど、親子で楽しく防災について学ぶことができます。

- 住所／立川市泉町1156-1
- 開館時間／午前9時～午後5時
- TEL／042-521-1119
- 休館日／木曜日・第3金曜日(祝日の場合は翌日)

まちかど防災訓練

ご自宅近辺の路上など、身近な場所で初期消火訓練や救出救助訓練をご近所同士で行う実践的な訓練です。



トピックス [まちかど防災訓練車]

小型車両に訓練に必要な道具や水が積載されているので、街区や小さな公園などでも訓練が可能です。消火栓等の水源がないところでも放水訓練をすることができます。



防災訓練を検索

「いつ・どこで」防災訓練に参加できるのか、マップ機能で簡単に検索できます。東京消防庁公式アプリ、またはウェブブラウザ版でご覧いただけます。



家具類の転倒・落下・移動防止対策

地震が発生すると、さまざまな被害が起こりえます。地震の被害を軽減するためにも、身の周りの家具などに転倒・落下・移動防止対策を実施しましょう。



3つの危険

1. ケガ



地震時にケガをした人の約3～5割は、家具類の転倒・落下・移動によるものでした。

2. 火災



ストーブなどに、家具類が転倒・落下することによって、火災が発生することがあります。

3. 避難障害

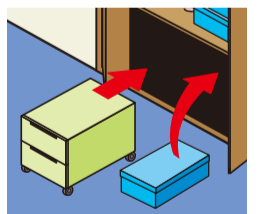


倒れた家具等がドアや廊下をふさいでしまい避難の妨げになることがあります。

3つの対策

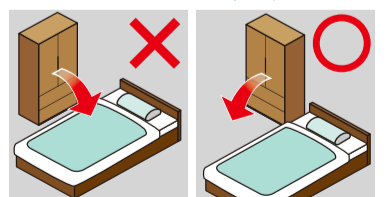
1. 集中収納

クローゼットや据え付け収納家具へ集中収納することで、できるだけ生活空間に家具類を置かないようにしましょう。



2. 家具類のレイアウトの工夫

寝室には、なるべく家具を置かないようにしましょう。置く場合は、レイアウトや置く方向を見直しましょう。



3. 家具類の転倒・落下・移動防止対策器具の設置

それぞれに適した対策器具を設置しましょう。



ボール式 ストッパー式 L型金具